

学校名	山梨県立盲学校	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	: 173回（運動会、オンライン等）
	地域交流	: 172回（治療奉仕、花植え、通信）
	居住地校交流	: 0回
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	学校間交流：（特別活動、道徳 等）	
実施した学部・学年	小学部（1年生・3年生・5年生）	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 沖縄県立盲学校との交流 </div>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(小学部1年生)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(小学部3年生)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">(小学部5年生)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自己紹介など初めての交流</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自己紹介、質問のやり取りなど</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">災害についての話し合い</div> </div>		
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から継続している県外の盲学校との交流に加え、今年度、新たな県外の盲学校とのオンラインでの交流も実施することができた。実施に向け、担当教師は相手校の担当の教師と丁寧に事前の打ち合わせを行い、お互いの児童や生徒の実態、交流内容や学習進度等の確認を行いながら進めた。 ・同年代の盲学校の生徒と交流をすること、他県の盲学校・地域の様子を知ること等を目的に、オンラインによる交流を実施した。1年生は自己紹介なども含め、お互いの学校について伝え合うことができた。また、昨年度から継続の児童は授業での意見交換や様々な学習・活動を通して、普段話すことのできない県外の友達とのコミュニケーションを深めることができ、貴重な経験をすることができた。 		
<p>課題点・次年度以降に向けて</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの学校のPCリーダー等の協力により、授業の中では大きなトラブルもなくオンラインでの実施を進めることができた。来年度以降もオンラインでの実施方法を、より工夫していきたい。 ・来年度以降も交流が継続できるよう、早めに実施に向けた書類を交わし、新年度の早い時期よりスムーズに実施ができるよう、取り組んでいきたい。 ・令和5年度全国校長会加盟校のオンラインによる交流希望リストにて、相互の学校のニーズにより連携が可能になっている。これらの情報を有効に活用し、効果的なオンライン交流を実施していきたい。 		

問い合わせ担当（ 小林 えみ ）

学校名	山梨県立ろう学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 33回
	地域交流 : 10回
	居住地校交流 : 29回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：交流ふれあい祭り（特別活動）
実施した学部・学年	小学部1～6年生
実践の様子	
	<p>はじめの会 山梨小の各教室をオンラインでつないで行った。学年ごとに分かれて参加した。児童会長が代表して話をした。</p>
	<p>「しゃてきや」店番 ろう学校の店「しゃてきや」の店番を行った。受付、案内、説明係を分担した。</p>
	<p>ゲームへの参加 高学年と低学年のペアで山梨小の店を回った。ポウリングやクイズ等、様々な店を回り楽しむことができた。</p>
	<p>終わりの会（感想発表） 代表児童が感想発表をした。</p>
児童・生徒の様子や実践の工夫点	
<p>新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、山梨小において4年ぶりの開催となった。開催を喜び、高学年の児童はリーダーシップを発揮しながら準備を進める姿が見られた。6年生は事前の学年交流で出店する店について説明したり質問に答えたりした。山梨小の店についてモニターに表示された資料を確認しながら説明を聞き、自分たちの店の参考にする様子が見られた。当日は低学年の児童も張り切って店番を行い、店に来た山梨小の児童に「どうぞ」や「頑張って」、「こうするといいよ」等、優しく声をかける姿が見られた。ろう学校の児童が山梨小の店を回った際は、山梨小の児童にたくさん声をかけられ、楽しんでゲームに参加する様子が見られた。山梨小の店にはゲームの説明が書かれた用紙が掲示されていたため、ろう学校の児童はその文章を読みながら説明を聞き、ゲームのルールを理解することができた。両校ともに縦割りのペアで動いていたため、高学年の児童が低学年の児童に助言して緊張をほぐす等、温かい雰囲気の中でさらに交流を深めることができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・風邪等が流行っていたため、全員マスクを着用して交流を行った。今後も児童の体調に合わせ、風邪や感染症等を予防していく。 ・来年度も山梨小と連絡を密に取り合い、児童会を中心に準備を進めていく。 ・ろう学校の教員が山梨小の児童を対象に行う聴覚障害に関する授業等を通して、山梨小の児童に難聴児にとって分かりやすいコミュニケーションの方法や資料提示の仕方について理解してもらい、交流及び共同学習に活かしてもらおう。 	

問い合わせ担当（ 渡邊 絵里那 ）

学校名	山梨県立甲府支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 16回
	地域交流 : 5回
	居住地校交流 : 6回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：池田小学校との交流（自立活動、各教科）
実施した学部・学年	小学部
<u>実践の様子</u>	
   	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>4年振りに直接交流の実施ができた。1～4年生は初めての直接交流だったためか、大人数に圧倒され、緊張している様子も見られたが、交流が進むにつれて笑顔が増え、活動を楽しむことができた。</p> <p>感染症対策のため、直接のふれあいはず、距離を取っての交流だったが、互いにダンスの発表をしたり、クイズを出し合ったりし、距離を取りながらも楽しめる活動内容を工夫して行った。</p> <p>池田小学校3年生の皆さんがリコーダーの合奏や合唱を披露してくれ、普段なかなか聴くことができないものを聞くことができ、貴重な時間だった。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>人数が多いため、交流場所は体育館が望ましい。</p> <p>交流の実施が他の行事の直後になってしまった学年もあり、児童への負担が少し大きかったと感じたため、ゆとりをもって取り組めるよう実施時期を検討する。</p> <p>来年度も直接交流の実施を基本とするが、オンラインでの交流も準備し、感染症の流行などに対応できるようにしておく。</p> <p>小学部では感染症対策をしながら直接交流を実施することができた。他の学部においても実施できるよう検討する。</p>	

<p>学校名</p>	<p>山梨県立あけぼの支援学校</p>
<p>交流及び共同学習 実施状況</p>	<p>学校間交流 : 7回</p>
	<p>地域交流 : 0回</p>
	<p>居住地校交流 : 4回</p>
<p>特徴的な実践例・工夫点</p>	
<p>授業名</p>	<p>学校間交流：増穂南小・甘利小の友達と交流しよう。 (特別活動・道徳)</p>
<p>実施した学部・学年</p>	<p>小学部全員</p>
<p>実践の様子</p>	
 <p>甘利小</p>	 <p>増穂南小</p>
	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p>	
<p>本校小学部では甘利小、増穂南小とTeamsを使ったオンラインでの交流を行った。本校小学部の6つの学習グループに合わせて甘利小、増穂南小の児童も6グループに分かれ、質問コーナーを設けたり合奏や絵本の読み聞かせをしてもらったりした。甘利小の児童は本校児童の実態に合わせて教材を作成し、教材を通じてかわりを深めることができた。事前の取り組みとして、両校の児童の自己紹介カードや写真カードを交換し、本校児童の映像を相手校に送ったり、本校職員が両校に赴いて本校の様子等を伝える福祉講話を行ったりした。福祉講話では通常の車いすと競技用の車いすの試乗体験も行ったことで、双方の理解をより深められるよう工夫した。交流を終え、コロナ禍以前に対面での直接交流を体験している相手校の児童の中には「あけぼの」に行ってみんなで交流したいと話す児童もいた。</p>	
<p>課題点・次年度以降に向けて</p>	
<p>コロナ禍以降、健康面への配慮が特に必要な本校児童の実態をふまえ、感染症対策として外部の方と対面での交流ができない現状にある。オンラインでの交流では感染の心配はないが、直接会って声を聴いたり触れ合ったりすることができないことは双方の児童にとって残念なことである。また、教員の多忙化解消のため行事の精選が行われ、交流行事に対する考え方も学校によって差が出てきているように思われる。</p> <p>そのような状況下であるが、オンラインでの交流であっても対面での交流であっても、互いの理解を深め、相手のことを思いやれる交流を目指し、両校にとって、交流することの大切さを再認識していきたい。</p>	

学校名	山梨県立わかば支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 17回
	地域交流 : 7回
	居住地校交流 : 13回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流 : 同世代の仲間と田植えをしよう (生活単元学習)
実施した学部・学年	高等部1年生
<u>実践の様子</u>	
	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>6月と12月に農林高校農業クラブと4年ぶりの直接交流を実施した。1回目は農林高校へ行き、田植えの体験をさせてもらった。農林高校の生徒にリードしてもらい、やり方を教わりながら息を合わせて田植えをすることができた。ペアとなる生徒の写真を互いに交換していたので、当日はやや緊張しながらも名前を呼び合うなど、恥ずかしそうに手を差しのべる場面もあった。2回目は、植えた稲からとれたお米を農林高校に持参してもらい、調理活動と会食を行った。カレー、豚汁、スイートポテトの3つのグループに分かれて、協力して調理をすることができた。1回目の交流から名前を憶えている生徒もいて、久しぶりの再会にとっても良い表情が見られた。会食後には、植えた稲を育て収穫するまでの過程を農林高校の生徒がスライドで発表し、同年代の立派な発表に良い刺激を受けた。別れ際は互いに良い表情で手を振る姿が見られて、改めて直接交流の良さを実感した。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・2度の直接交流は、互いの存在を実感として感じ、振る舞いや言葉遣い等とても良い刺激になった。 ・田植えの経験、田植え後の稲の様子等を知れたことは貴重な体験だったので、継続したい。 ・2度に渡る交流会の間に日々の学習の交流(オンラインでのやりとりやメール、手紙等)ができるとさらに互いへの関心は深まると思われるので、事後学習も計画的に行いたい。 ・生徒たちが企画に携わる機会があるとさらに深い交流ができそうなので計画できるとよい。 	

問い合わせ担当 (富田 夏紀)

学校名	わかば支援学校 ふじかわ分校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 4 回
	地域交流 : 3 回
	居住地校交流 : 9 回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	体育・音楽
実施した学部・学年	中学部 1年・3年
実践の様子	
	
ボッチャ	太鼓の発表
	
鰻沢ばやし視聴	一緒に鰻沢ばやし演奏
児童・生徒の様子や実践の工夫点	
<p>鰻沢中学校で障がい者スポーツのボッチャを行った。分校の生徒がルールを説明した後、3チームに分かれリーグ戦で行った。各チームで順番や投げる球筋などを相談しながら行う姿が見られた。次に、お互いが練習している太鼓の演奏を披露しあった。分校からは分校まつりに発表した演奏を、鰻沢中学校は鰻沢ばやしの発表を行った。分校の生徒は音楽の授業で太鼓をたたき慣れ親しんでいたことから、鰻沢ばやしの叩きかたを鰻沢中学校の生徒に口伝とともに教えてもらい、そのあと全員で鰻沢ばやしを少したたくことができた。また、練習中も分校の生徒のリズムに合わせて鰻沢中学校の生徒が篠笛を吹いてくれる場面もあった。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>今年度は、鰻沢中学校の都合により、1回目は間接交流、2回目は直接交流となった。今年度は一度も会わないまま、中学生が交流及び共同学習の内容を考えることとなった。しかし、やはり分校の生徒に会っていないまま相手に合わせた計画を立てるのは難しいのではないだろうか。一度顔を合わせ話をして相手のことをイメージしてから計画を立てることで相手の顔の見える交流及び共同学習はできるのではないかと感じた。来年度は1回目は分校へ来て実施、二回目は鰻沢中学校で実施としたい。</p>	

問い合わせ担当 (小野 みゆき)

学校名	山梨県立やまびこ支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 16回
	地域交流 : 5回
	居住地校交流 : 10回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校を紹介しよう（特別活動・生活）校歌の発表（音楽）
実施した学部・学年	小学部全学年
<u>実践の様子</u>	
     	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>交流内容は、主に普段の授業で学習している内容を取り上げた。1回目の交流（本校で実施）では、児童が交流に期待感をもてるよう、事前に自己紹介カードの作成、交換を実施した。学校探検（学校紹介）では、4グループに分かれて各教室を回った。探検の際には、手を繋いで一緒に歩く児童の様子や会話している様子が見られた。探検した各教室では、授業で学習した成果を発揮できるように授業で取り上げた内容を設定し協力して解決できるようにした。また、2回目の交流では交流校が交流を企画し、お店屋さん活動、学校探検をした。事前に交流校より提供された資料の一部を児童の実態に合わせて加工し交流当日の補助教材として活用することができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態によっては、探検活動は、難しかったが一緒に歩いて行動する児童も見られた。児童の実態によって活動内容を工夫していくことが必要である。 ・第2回目の交流では相手校を訪問し、学校探検とお店屋さん活動と二つの活動を行った。児童によっては活動量が多かったため、活動内容の精選を検討する。「ゆとりをもち児童間で、交流する場面が増えるように」との意見があげられた。 ・交流校との打ち合わせの回数を増やし自己紹介カード、事前資料など教材の共有を図っていく。 	

問い合わせ担当（ 山口 清美 ）

学校名	ふじざくら支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 8回
	地域交流 : 5回
	居住地校交流 : 10回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：みんなで踊ろう、歌おう（特別活動）
実施した学部・学年	中学部全学年
<u>実践の様子</u>	
	
	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>2回目の対面での直接交流の事前学習をビデオ通話システムを用いて行った。河口湖北中学校のグループと本校の学年毎にリモートをつなぎ、河口湖北中学校の生徒から『ソーラン節』の振りを教えてもらった。リモートでの事前交流をしたことで、迫力満点のソーラン節と一緒に踊ることができた。また、本校の生徒が合唱曲「にじ」の手話を河口湖北中の生徒にレクチャーする時間を設け、両校合わせて約50名で手話付きの『にじ』を大合唱し、心温まる時間を過ごすことができた。班内での関わりも増え、両校生徒の笑顔がたくさん見られた交流会となった。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ通話システムを使うことで手軽に交流を行えるようになり、今回の中学部の実践のように関わりを深めることができた。 ・小学部低学年は1回目は対面での交流、2回目はリモートでの交流を行った。対面では、触れ合い遊びやバルーン遊びなど、関わりがもちやすく、楽しめる内容を設定することができた。リモートではダンス等の発表やゲームを行い、画面に注目したり、友達に気付いたりする様子は見られたが、交流という部分では難しさを感じた。 ・交流方法や内容について、相手校と密に打合せを行い、限られた交流会の中で、双方の児童生徒にとって実りあるものにしていきたい。 	

学校名	山梨県立かえで支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 21回
	地域交流 : 8回
	居住地校交流 : 11回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流: 相手を想ってお菓子を作ろう (作業学習)
実施した学部・学年	高等部1~3年生 (食品加工班)
<u>実践の様子</u>	
パウンドケーキ を作る様子→	
	
	
	↑いただいたお礼のメッセージ
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
相手先から、運動会で配布するために、パウンドケーキとシフォンケーキの受注をいただき作業学習の授業で取り組んだ。 生徒からは「〇〇高校のみんなに食べてもらえることは嬉しい。」「美味しく作りたい。」と、相手のことを考えて作る喜びを感じている様子が見られた。作る相手がいたり、目的が分かりやすかったりしたことで、やりがいをもって作業学習に取り組んでいた。 相手先から、実際に食べている写真と合わせてメッセージをいただいた。生徒達は嬉しそうに一つずつメッセージを読み、励みにしているようだった。	
課題点・次年度以降に向けて	
・今年度は、作業学習の授業で作ったものを、相手校の行事に合わせてお渡しすることができた。生徒の得意とする活動や普段の授業で学習していることを行うようにして、自信をもって活躍できる場を多くしていきたい。 ・お礼としていただいたメッセージは、多くの生徒が関心をもって読んでいた。しかし、生徒の中には直接会っての交流ではないため、相手の姿をイメージしにくい生徒もいた。間接交流となる時は、絵や写真、動画等を用いて生徒がより理解しやすい方法を探していきたい。	

学校名	山梨県立高等支援学校桃花台学園
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 7回
	地域交流 : 13回
	居住地校交流 : 0回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流（石和東小学校2年生）： マーケットの案内・販売・接客（専門教科）
実施した学部・学年	高等部2・3年 食品加工コース・農業生産コース
<u>実践の様子</u>	
	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>サツマイモの定植で交流をした農業生産コースの2年生が中心となり、会場準備をし、児童の案内・販売・接客を通じておもてなしをした。</p> <p>あらかじめ児童からの注文をとり、パンや焼き菓子、野菜を確実に購入できるよう準備した。また、小学生が買いやすいサイズや価格の商品を用意した。</p> <p>本校生徒は、小さなお客様ということで接客の仕方を工夫し、児童の視線やペースに合わせて、優しく対応し、かかわりを楽しみながらやりとりをすることができた。生徒は自分たちが作った商品が喜んでもらえる様子を見て、やりがいを感じることもできた。</p> <p>児童が本校で購入した商品について家族に話をすることで、本校の取組の様子が自然に地域に広がり、地域の理解や協力を繋がるきっかけとなるように取組を大切にしている。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・石和東小学校1、2、6年の交流は定着してきた。他学年との交流も広げられたらよい。 ・本校生徒との交流をきっかけに、児童から家庭、家庭から地域へと、本校や障害教育について、理解に広がっていくであろうと思われる。小学校との交流は、学校間交流にとどまらず地域交流の発展にもつながっていくといえるので、今後も大切にしていきたい。併せて本校の生徒の良さや頑張り地域に知ってもらい、地域と共に育つ学校となれるように取組を充実させていきたい。 ・今後改めて目的を見つめ直し、カフェの交流のような特別支援学校同士のつながりや共同学習について検討をしていきたい。 	

学校名	山梨県立特別支援学校うぐいすの杜学園
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 0回
	地域交流 : 5回
	居住地校交流 : 0回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	特別活動：緑化活動や清掃活動を通じた地域交流
実施した学部・学年	全学年（小学部・中学部）
実践の様子	
	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <p>1学期は、小中学部合同で花の寄せ植えプランターを作り、学園近くの伊勢四郵便局へ寄贈した。郵便局へ来る地域の方々の目を楽しませられるように、色の組み合わせや花の配置を考えながら作業を行った。郵便局の局長さんより、「華やかになってうれしい」というお礼の言葉も頂いた。2学期は、学園敷地内やプラザ内の清掃活動を行った。また、花いっぱい運動として、チューリップの球根を学園の外の道からも見える花壇に植えたり、学校の玄関前に飾れるようにプランターに植えたりした。学部や学年の垣根を越えて、プラザや学園をきれいにするために協力して作業を行うことが出来た。地域の方との触れ合いは限られたものであるが、自分たちが生活している施設や学園をきれいにした、近くの郵便局を意識したりと、学校と地域社会の関係を考えることができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>・本校は児童生徒の実態や、個人情報に配慮が必要なため、直接の交流は実施できない状況がある。今年度は緑化活動や美術作品の展示等を通して、地域を知ることや近所の方々と間接的でも触れ合う機会ができればと考え、計画・実施を行った。</p> <p>・今後も、生徒の状況に合わせた触れ合いの機会をもつとともに、ホームページ、作品展示、地域だよりを通して地域とつながりを広げていくことや、さらなる交流の可能性を探っていくことが望ましい。</p>	

問い合わせ担当（ 横山 明子 ）

学校名	山梨大学教育学部附属特別支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 8回
	地域交流 : 3回
	居住地校交流 : 4回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：附属小の4年生となかよくなろう（生活単元学習）
実施した学部・学年	小学部全学年
実践の様子	
	
児童・生徒の様子や実践の工夫点	
<ul style="list-style-type: none"> ・附属小が来校後、最初に教室見学の時間を設けた。自分の学校との違いに気付き、積極的に支援学校教師に質問する姿が見られた。本校児童や支援学校への理解の一助となった。 ・交流の内容は、感染症対策を踏まえ、ディスタンスを保ちながらも同じ場で一緒に楽しむことができるダンスとポッチャを設定した。本校から3曲のダンスを提案し、附属小学校が、学級毎に踊りたい曲を選んだ。初めてポッチャを体験する児童が多く、盛り上がった。全員が体験できるように、附属小1クラスを3グループに分け、低学年学級グループ・中学年学級グループ・高学年学級グループごとに活動した。終わりの会では、附属小児童から「ポッチャが楽しかったです。」「もっとしたかったです。」「また一緒に遊びたいです。」等の感想発表があった。障害者スポーツと一緒に楽しむことができたと思う。 ・今年度は3回の交流を実施することができた。初めて行った3回目の交流会は、本校小学部全児童（19名）で附属小に伺った。内容は、附属小が企画した。本校児童1名と附属小2名の児童でグループを作り、9つの遊びの活動ブースを回り、楽しく活動することができた。本校の児童への関わり方や活動内容をどう工夫したら楽しめるかなどについて、様々な質問が附属小児童から寄せられた。直接的な関わりを通して、本校児童を理解したいという思いが高まっていた。後半は、学年合唱を聴いたり、合奏や歌唱を披露したりと学習の成果を発表し合うこともできた。 	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>・附属小4年生90名ほどと本校児童19名の人数差を踏まえた、交流内容と環境設定が課題ではある。両校の交流担当者で、来年度に向けての方向性を話し合い、現段階では、5月に附属小にて「よろしくねの会」、6月に本校にて今年度と同様の内容で交流を行い、まずはお互いを知ることから始めることを予定している。今年度、初めて実施した3回目の交流会での成果を両校で確認し、来年度も実施の方向で調整することになった。附属小が事前準備に要する時間も考慮して12月に予定している。両校の来年度の行事計画とすり合わせ、仮の実施日を設定したが、来年度早々に、日程の確認や新担当同士での打ち合わせを行う必要がある。</p>	

問い合わせ担当（ 大脇 知恵 ）